

## 金日成主席とその歴史的役割

ロシア極東連邦総合大学教員  
クリコフ・ゲンナジー・ペトロビッチ

朝鮮民主主義人民共和国の永遠なる主席である金日成主席は、1912年4月15日に誕生しました。

われわれは今年、金日成主席の生誕110周年を慶祝しています。

金日成主席は、社会主義朝鮮の始祖であり、人類の自主偉業、社会主義偉業の遂行に業績を積み上げた革命家です。

金日成主席は、日本の植民地支配に反対し、国の独立と自主権のためにたたかった闘士、アメリカ帝国主義に反対してたたかった闘士、国家および政治活動家、党および軍事活動家、朝鮮民主主義人民共和国の創建者です。

金日成主席の革命活動は、規模が膨大で深奥であるので、この論文でそれを全部反映することはできません。

ここでは、もっとも重要な一つの側面だけを強調しようと思います。

金日成主席は、国家の指導思想であるチュチェ思想の創始者です。

チュチェ思想は1930年6月、歴史的な卡倫会議で創始され、その時から朝鮮人民の闘争で、この独創的な思想の意義と役割が間断なく強化されてきました。

朝鮮人民の闘争過程には、外的条件がある程度作用をしました。

外的条件には1910年から日本が敢行した植民地的占領、1945年に日本軍国主義からの解放で終わった民族解放戦争と1953年に朝鮮人民の勝利に終わったアメリカ帝国主義との戦争が該当すると見ることができます。

日本帝国主義の植民地的占領とアメリカ帝国主義が起こした戦争によって、朝鮮は人的及び物的生産力がさんざんに破壊されました。

国の破壊された生産力を復旧する活動、正しく言えば、単に復旧するだけでなく、20世紀に達成された科学技術の高さで建設することは、非常に重要でありながらも複雑な活動でした。

国が解放された後、朝鮮半島は北と南に分断されました。米軍は今までも南朝鮮に駐屯しながら、緊張激化と挑発の恒常的な根源となっています。

解放後、朝鮮民主主義人民共和国は一連の重大な課題を遂行しなければなりませんでした。

それは、人民的性格を帯びる政治制度を確立する課題、言い換えれば、党と国家、勤労者団体を創建する課題でした。

諸般の民主的課題を遂行すると同時に、社会主義社会を建設するための正しい戦略と戦術を立てることが必要でした。

大規模の工業と現代的なインフラを建設し、科学と文化を発展させ、農村の文化を現代的水準に引き上げるべき使命を担った勤労者大衆を教育しなければなりませんでした。

一方、ソ連と他の社会主義諸国の社会主義建設経験を考慮に入れながらも、自国の民族のおよび歴史的条件に合う独特な路線を探求しなければなりませんでした。

結局、このような路線を見出すようになりました。それはチュチェ思想にもとづいて、労働者階級をはじめとした全朝鮮人民の利益を反映する路線でした。

その代表的な実例として、経済建設と国防建設を並進させるという路線を挙げることができます。

朝鮮は、対外政治情勢が複雑で、自主的な国家である朝鮮民主主義人民共和国にたいするアメリカの直接の武力干渉の脅威が存在する状況下で、国の防衛力を強化することにも力を入れるべきでしたが、これがまさに並進路線に反映されたのです。

チュチェ思想を創始し、実践に具現したのは、現代の社会発展に作用する多くの要因の中で、思想的要因の重要性を洞察した金日成主席の業績です。

金日成主席は決して「マルクス・レーニン・スターリン主義」学説を模倣しながら伝統的な路線を踏襲したりしませんでした。西欧とソ連の現実にもとづいて立てられた従来の学説は、数十年間、残酷な日本の植民地としての境遇にあったし、アメリカの軍事的干渉によって苦痛をなめてきた朝鮮人民の志向と要求、朝鮮の実情に合いませんでした。民族的独立を達成した後、人間が自己の運命の主人であるという、朝鮮の独創的な思想であるチュチェ思想は、民主建設時期と社会主義建設時期、朝鮮の実情を反映した新たな内容で補充されました。

われわれはここで、朝鮮民主主義人民共和国の永遠なる主席である金日成主席の後継者である金正日総書記が 1994 年 11 月 1 日、朝鮮労働党中央委員会機関紙「労働新聞」に発表した著作「社会主義は科学である」について言及しようと思えます。

著作は爆弾のような効果を発揮して、すぐ世界各国の社会主義理論家だけでなく、社会主義の背信者も関心をもつようになりました。

われわれは、この時期に多くの国と政治家が連続的に社会主義を放棄し、さまざまな言いがかりをつけて共産党を禁止または解体させ、自分の党員証を焼き払った事実を記憶しています。

このように大々的な背信とデマ、社会主義にたいする非難がおこなわれていた恐ろしくて息詰まる環境の中でも、清潔な空気のように、落ち着いて確信に満ちた「社会主義は科学である」という声が響き渡ったのです。

今日も社会主義は数百万の人々の心の中に生きており、社会主義のための闘争は続いています。社会主義は自分の陣地を明け渡さないでしようし、帝国主義の前に屈服しないでしよう。核の恐喝も、封鎖も、国境挑発も、社会主義を脅かせないでしよう。いかなる「歴史の終焉」も、「社会主義の終焉」もないでしよう。

金正日総書記が著作で示した「多くの国における社会主義の崩壊は、科学としての社会主義の失敗ではなく、社会主義を変質させた日和見主義の破綻を意味する。社会主義は日和見主義によって一時的に心痛に耐えない曲折を経てはいるが、その科学性、真理性によって必ず再生し、最終的に勝利を収めるであろう」という真理は、社会主義を志向する進歩的人民に信念と楽観を与えました。

社会主義は、自主と自由、独立と社会的正義、平和を志向する人民大衆の念願です。

歴史のどの段階でも、20世紀のように革命と反革命との闘争、平和勢力と反平和勢力との対決が激烈におこなわれたときはありませんでした。

勤労者大衆は自主性を志向し、自己の運命を自分が開拓しようとしてきました。

これが20世紀の歴史を通じて、われわれが得るようになった結論です。

まさに、この結論をはじめて認識し、全世界に堂々と宣言したのが金日成主席です。ここに金日成主席の歴史的役割があるのです。